

# JR 東日本(株) 技術アカデミー リーダー育成プログラム ～川根本町プロジェクト～

8月2日(金)から8月7日(水)にかけて、町内を会場としてJR 東日本(株)の社員研修が昨年度に引き続き実施されました。

この研修は、本町が抱える課題に対し有効な解決策を答申すること、そのプロセスを通して自身のリーダーシップを育むことを目的に開催されているものです。

今年度は55人の参加者が8つのグループに分かれ「住み続けたい、帰ってきたくなる魅力ある地域づくりのために、小長井・千頭エリアの活性化につながる施策」と「町民の誇りである茶畑が耕作放棄地になっている現状を打破する持続的な取り組み」という2つの課題に挑みました。

8月6日(火)には山村開発センターを会場に成果発表会が実施され、町長や教育長、町幹部職員などが出席、提案内容の「実現可能性」と「ワクワク度」の2つの観点から採点と審議が行われました。



●期間中には小長井で行われた徳谷神社祭典に参加するなど、町民とも交流しました●

## それぞれの課題に対して審査員の評価の高かった提案内容を簡単にご紹介します

### ○転出者への継続的な地元情報の発信で U ターンを促す○

#### ◆提案内容

転出者に対して町の情報を継続的に提供することで、一人でも多くの U ターン希望者が増えることが期待される。U ターンに至らない場合でも川根の魅力が語ることができる人を増やすことが大切ではないか。

#### ◆講評

地元を気にかけてもらうきっかけづくりとしては効果的であると感じた。提案にあった転出者への理由聞き取りなどは今後検討したい。

課題に対するアプローチ

1. 広域連携型で、町内各所を結ぶネットワークを構築し、町民の生活に貢献する。また、町民の生活に貢献する。また、町民の生活に貢献する。

2. 町民の生活に貢献する。また、町民の生活に貢献する。また、町民の生活に貢献する。

3. 町民の生活に貢献する。また、町民の生活に貢献する。また、町民の生活に貢献する。

### ●稼げる新たな農作物として、耕作放棄地を活用したミントの栽培●



#### ◆提案内容

栽培が容易で動物による食害を受けにくい転換作物としてミントの栽培を提案。町内産の杉を活用した隣接農地への防臭設備、想定されるコスト、川根茶と融合したミントティーといった展開についても解説。

#### ◆講評

まずは地域にあった作物かどうかを検証してみることが必要。転換作物として栽培したいとの声があれば町としても支援をしていきたい。



# さらなる品質の向上を目指して ～川根本町茶品評会～



7月17日(水) 地名の農林業センターにおいて川根本町茶品評会と意見交換会が実施されました。

審査員長である農研機構果樹茶業研究部門茶業研究領域「水上裕造」氏からは「上位と下位との品質の差は少ない」「上位のお茶は山のお茶らしいみずみずしい若芽の香りがある良品」「下位については生葉管理や製造工程の改善が必要である」と講評がありました。

また、審査員と生産農家による意見交換会では「山のお茶の特徴である香りを追求するには今回の評価をどのように反映したらよいか」といった質問があったほか、「山のお茶」の知名度を上げるための取り組みについて多くの意見が出されました。

審査終了後、出品者と審査員による意見交換会が行われ、川根茶の特性を生かすための茶園管理や製造方法について議論されました。なお、品評会の受賞者は下記のとおりです。

○審査員(敬称略・順不同) 6人  
・カワサキ精工株式会社「岸本浩志」・JA静岡経済連茶業課「清水直也」・JA静岡経済連茶業コンサルタント「谷博司」・農研機構果樹茶業研究部門茶業研究領域「水上裕造」・県茶業研究センター「藤井拓」・志太藤原農林事務所企画経営課「中川博之」

### 受賞者

手摘みの部	優等	相藤園	相藤令治
	1等	相藤農園	相藤直紀
機械摘みの部	優等	丹野園	丹野浩之

出品数合計12点

## ～静岡山のお茶連合事業意見交換会～

町茶品評会の終了後、県内の浅蒸し茶生産農家で構成される「静岡山のお茶連合」の一番茶品評会と意見交換会が行われ、川根・本山・清水・春野・磐田の各茶産地から生産農家10人が参加しました。

審査員から「上位のものは山のお茶らしい新鮮でみずみずしい若芽の香りがある良品」「下位については生葉管理や製造工程の改善が必要である」と講評がありました。

また、審査員と生産農家による意見交換会では「山のお茶の特徴である香りを追求するには今回の評価をどのように反映したらよいか」といった質問があったほか、「山のお茶」の知名度を上げるための取り組みについて多くの意見が出されました。

